

京北地域小中一貫教育校検討協議会 第2回通学安全検討部会摘録

- 日 時 平成29年3月6日(月) 19:30~20:35
- 場 所 京北合同庁舎 大会議室
- 出席者 通学安全検討部会メンバー20名(1名欠席), 事務局及び関係職員12名
- 傍聴者 10名
- 配布資料 資料1 第2回通学安全検討部会次第
資料2 第1回通学安全検討部会の内容(パワーポイント資料)
資料3 グループ協議名簿

□議事要旨

1 会議の進め方について

前回の協議内容を確認後, 通学にあたってバスを利用する地域の課題等についてグループ協議を行う旨, 教育委員会から説明を行った。

2 第1回会議の内容について

前回の協議内容について, 資料2に基づき, 教育委員会から説明を行い, 確認された。

<前回出された意見に係る説明>

① 部活もある中学生と小学校1年生が同じ時間帯に帰るわけにもいかない。教育課程と連動してバスの在り方を考える必要がある。

→(教育委員会) 通学バスの運行は, 教育課程・時間割と連動すると認識している。低学年と高学年では下校時間が変わるので, それに応じたバスの確保は必要と考えている。

② 従来の徒歩通学に加えてバス乗車が必要になる地区に配慮が必要。バスを当該地区まで入らせる考えはないのか。

→(教育委員会) 京北第二小校区の中江地区のことだと認識している。現地を検証したところ, 当該地区から国道までの徒歩距離は約1km~約1.5km。最も遠い下ノ町から, 実際に児童と一緒に歩いたところ約17分であった。現在も, この地区から第二小まで児童は徒歩通学であり, 徒歩距離は変わらない。バス通学において走行する道路は, 現在ふるさとバスが走行している道路とすることを基本としているところであり, 国道から当該地区に至る道路状況からも, バスの離合や転回等の点からバスの運行には適していないと考えている。

③ 灰屋口の子どもは, 小塩を経由した場合, 乗車時間が長くなり, 低学年には負担である。

→(教育委員会) ふるさとバスの社会実験のひとつである小塩線と灰屋線の一本化を踏まえた意見であると受け止めている。小塩を経由する場合, 乗車時間が井戸~小塩間を往復する分の14分長くなる。これについては, 課題と認識しており, 今後の協議の中で様々な意見をお聞きしながら検討してまいりたい。

④ 山国の殿橋周辺は歩道がなく, 歩くには危険なため, 安全確保に配慮してほしい。

→(教育委員会) 当該道路の幅員に鑑み, 新たに歩道を整備することは難しいと考えている。

下地区からの通学において、一小方面への側道を歩き、迂回して通学する方法も考えられるが、当該側道には外灯もなく、通学にあたって安全対策が必要な箇所であると認識している。児童の安全に配慮し、殿橋バス停まで歩き、そこからバス乗車することも含め、今後ご意見を頂きながら検討していきたい。

- ⑤ 弓削地区のふるさとバスは、上弓削は旧道を走っているが、下弓削は国道（162号）を走っている。住居の大半は旧道沿いにあり、そこから国道までは距離があるため、通学用のバスは旧道にも入ってほしい。

→（教育委員会）京北第三小校区の下弓削の国道と並行する旧道沿いの塩田地区のことだと認識している。現地を確認したが、旧道はもとより、国道から旧道に進入する際の橋の幅員も狭く、バスの運行には適していない。また、塩田地区から国道のバス停までの距離は1km未満であり、バス停までの時間は徒歩15分。現状、塩田地区の児童は、学校までの約3kmを約50分かけて通学していることと比較しても歩く距離は短くなる。また、バス乗車後6分で学校に着き、通学時間は全体で約21分となる。

- ⑥ 通学バスの形態は、スクールバスになるのか、ふるさとバスになるのかを決めてもらいたい。

- ⑦ 通学バスの形態はスクールバスが良い。

- ⑧ ふるさとバスの利便性を高め、混乗で通学するのが良い。市街地では市バスで通学することは普通のことである。スクールバスだけにすると、将来の京北の公共交通や地域の足がどうなるか。

→（教育委員会）前回会議で、バス通学において走行する経路は「現在ふるさとバスが走行している道路を走行することを基本とする」ことを確認した。今後、バスの乗車対象範囲について検討を進めていきたい。乗車対象範囲を定め、開校時の乗車人数の見込等がある程度定めたいうえで、ふるさと公社をはじめとする関係機関と協議を行い、具体的な運行方法等について提案していきたい。

※ 京北第二小・京北第三小校区の現状の通学時間と開校時の通学時間の比較資料（資料2）8頁・15頁参照）を参照しながら、開校時の徒歩通学の距離は、現状もしくはそれ以下になることを説明。

3 乗車対象範囲の協議

学校単位（①京北第一小 ②京北第二小 ③京北第三小・周山中）に分かれ、「通学にあたって、バスを利用する地域」をテーマに協議を行った。

その後、協議で出た主な意見を、各学校の校長から発表。（以下は、校長が発表した意見以外に、グループで出ていた意見を含んだ記録）

①京北第一小グループの主な意見等

【宇津】

- スクールバスと路線バスが並行して運行。現在、朝便のみスクールバスと路線バスの一

本化の社会実験を実施中。スクールバスに合わせた運行形態としており、また、大型車両バスのため、児童全員座ることができている。特に問題はない。

- 「魚が淵」から子どもが通学することになれば、通学方法等の対策が必要。(現在、魚が淵から通学する児童はいない。)

【細野】

- 余野線・長野線ともスクールバスの混乗で、一般客はほとんど乗車していない。自分の親の年代の人が、たまに乗っているような状況。そのまま混乗で良い。
- 児童数が減っているのので、ハイエースのような10人乗り程度の車両に変えてもらっても良い。
- 本題とは別の話だが、下長野から細野口に出ても、JRバスと連絡できていない。

【矢代】

- 特に問題はない。

【五本松】

- 冬季(11月～3月)のみスクールバスに乗車。統合しても、冬場は現行のとおりスクールバスに乗車させてほしい。
- 徒歩通学の場合、歩道が整備されているバイパスを歩いているので安全である。
- 以前、熊が出没したので熊鈴を付けて歩いている。地域の方に、子どもが通学していることを意識してもらえている。
- 児童が減少し集団登校が難しくなれば、危険性も高まるので、バスに乗せてほしい。

【卯滝口】

- 卯滝口のバス停に出るまでに時間がかかる。

【城山】

- 冬場は積雪・凍結等により、徒歩通学は危険である。
- 徒歩で八千代橋まで出て、そこからバス乗車も考えられる。
- 中学生は自転車通学を認めても良いのでは。

②京北第二小グループの主な意見等

- スクールバスか、ふるさとバスになるのか決めていただきたい。スクールバスであれば、土日に部活動などで利用できないのでは。ふるさとバスであれば、定期券となるので乗車できる。大きな問題であるので先に決めてほしい。
- 土日等において、部活動の際にも定期券を使用できるようにしてもらいたい。
- 通学でバスを利用したことがない地域の不安解消を願う。
- 通学面でも、統合して良かったと思えるようにしてほしい。
- できるだけバスの乗車時間を短くしてほしい。
- 通学に当たってバスに乗車する場合は無料となるのか。(統合により遠距離となる児童について、公費負担により登下校に必要なバスは確保することを確認した。)
- 小塩線の路線バスを小型にして、中江地区に入ってほしい。そうすると、お年寄りも乗車でき、便利になる。
- 中江地区の子どもは、あまり徒歩について気にしていない。
- 殿橋付近は歩道が無いので、統合を機に歩道の整備や橋の新設などを検討してほしい。
- 下地区から側道沿いに歩いて、一小の方に迂回して通学することも考えられるが、その

場合、外灯等の整備が必要である。

- 下地区の高野の保護者は、歩いて通学させたいと思っている。
- 自転車通学の地域について、現在、下、鳥居地区だけであるが、もっと範囲を広げてほしいという声もある。また、自転車通学の対象学年も検討してみてはどうか。
- 黒田の子どもは、現在スクールバスで通学しており、バス通学に慣れている。統合すれば、乗車時間が6分延びる。
- 今回の統合で、新たにバス通学する子どもへ配慮してもらいたい。
- 路線バス2本の経路について検討してみては？との意見もあったが、安全面を考慮すると、やはり国道を運行する現状の方が良いという意見もあった。

③京北第三小・周山中グループの主な意見等

【乗車範囲等について】

- 京北第三小学校区の小学生は全員バスに乗るのが良い。同校区の中学生は、現在も全員路線バスに乗っているが問題ない。
- 部活など自転車の方が融通が利くので、自転車希望の生徒もいるかもしれない。
- 周山中の自転車通学対象地域（京北第一小校区の五本松、百ノ角、太田、京北第二小校区の下、鳥居）について、当該地域が自転車通学対象となった明確な決まりはない。
- 京北第三小校区の生徒も自転車通学を認めてもいいのではないかな。
- 自転車通学は安全上の問題もある。バスに乗車できる生徒が敢えて自転車に乗ることにしなくてもよいのではないかな。
- 中学生の自転車通学などの通学方法については大枠だけ決めて、運用は学校に任せるといことで柔軟に対応するのが良いのではないかな。

【運行に当たっての課題等について】

- バス停まで少し距離がある地域もあるが、現在、京北第三小学校まで歩いていることに比べると徒歩距離は相当短くなる。
- 歩くということも大事ではないか。現在通学で歩いているので、体力がついてきている。
- 統合により初めてバスに乗る子どもも出てくるうえ、保育所を出たばかりの低学年には配慮が必要。バスに乗るまでの地域の見守りも大事である。着席についてもルールが必要。運行時間帯にも工夫が必要。
- 小1については、最初の半年くらいは支援が必要ではないかな。
- 下校の時刻は色々考えないといけないと思う。
- 警報発令時の対応について、現在小学校と中学校で異なっていることも検討課題である。
- 現在、鳥谷の小学生は徒歩で通学、中学生は下中まで歩いて路線バスに乗っている。田貫までバスを運行させるのは非効率的である。
- 田貫の子どもが下中まで出てくるのは、中川・真弓地区のように教育委員会に車や燃料費をお願いしたうえで地元や保護者による送迎ということも考えられる。
- 現在の京北第三小児童数からすると、1台のバスに全員乗車するのは厳しく、何らかの形で2台のバスが必要だと思う。ただ、その場合でも、地域ごとに乗車バスを明確にする必要がある。とりあえず来たバスに乗るということではいけない。
- スクールバスありきで考えるのは良くないと思う。この先、少子高齢化が見込まれるな

か、公共交通を確保し、地域住民とともに子どもも利用するという方が良い。スクールバスだと子どもがいなくなった地域はバスが走らなくなる。そのためにも、路線バスをもっと利用しやすいようにする必要がある。

- 京北第一小校区の細野について、統合当初はスクールバスと路線バスが運行していたが、非効率的であるとの地元の意見を踏まえ、スクールバスに一般乗客も混乗することになったという事例もある。
- 路線バスも現状ありきではなく、効率化することも大事である。子どもの通学のことだけでなく、公共交通の在り方としても考える必要がある。
- 路線バスの関係者から、運営が苦しいことはよく聞く。路線バスが成り立つように考える必要がある。

<質疑応答>

- PTA会員から、スクールバス確保の要望、路線バスや通学路に関する意見を頂いており、グループ協議の中で話をさせて頂いたが、それ以外に「開校までの検討協議会及び専門部会の開催予定や今後の進め方のロードマップを示してほしい」「校区ごとに通学安全に関する住民説明会を開催してほしい」という要望が出ている。(今後の予定については、住民意見がどう反映されるのかも知りたい。)また、学校ごとの説明会は是非開催して頂きたい。

→ (教育委員会) 会議のロードマップについては、次回6月に予定している検討協議会でお示ししたい。また、通学安全に関わらず、検討協議会の進ちよく状況に応じて適宜住民説明会を開催する。なお、通学安全については、各地域の実状も踏まえ、各学校で住民説明会を開催することも検討していきたい。

<確認・決定事項>

本日出された意見を事務局で整理し、それを基に次回の会議でも引き続き乗車対象地区の検討を行う。

4 次回の開催日程について

第3回会議は、6月以降に開催する。